

2025年度 山梨学院高等学校 学校評価

I. 分掌・学年の振り返りと自己評価

評価・振り返り項目

- 項目1：生徒一人ひとりの夢を応援する（生徒の進路実現）
- 項目2：教育力の山梨学院（私学としての競争力を高める）
- 項目3：重点目標（進学実績の向上、ハイスクールスポーツ、文化活動の振興、国際化の推進）
- 項目4：分掌・委員会・教科会の活動の推進（組織力の向上）
- 項目5：教職員の基本的な職務の改善

分掌・学年主任による自己評価を元に、学校長が最終評価を行った。総合評価である。

A：十分に達成 B：おおむね達成 C：やや達成 D：未達成

●分掌名（ 教 務 ） 評価：B

項目	成果や課題
1	<ul style="list-style-type: none"> ・選択科目の検討と早期決定ができた。 ・長期休業中の課題の検討と生徒への提示が早期にできた。 ・教育課程案の作成と調整ができた。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望に沿ったきめ細やかな教育課程を提供することができた。 ・全てのコース・系列で生徒を主体とした学校説明会、オープンキャンパスが開催できた。 ・本校入試の実施にあたり、入試事務局と連携して取り組んだ。また、Web出願の適切な処理および管理ができた。 ・生徒（留学生を含む）の満足度をより一層高める工夫が求められている。 ・学校説明会やオープンキャンパスが生徒募集につながる重要な行事であることを教員一人ひとりがより意識した取り組みにする必要がある。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の学習支援に繋がるカリキュラムができた。 ・スポーツ留学生への支援について課題が残る。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌業務の分担を進めることが出来た。 ・「総合的な探究の時間」や「特別活動」への取り組みが充実してきた一方で、クラス間の差異がある。 ・「観点別学習状況」の開示の仕方について、検討の余地がある。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに振り返りを実施し、職員会議で共有することができた。 ・行事の要項を早期に作成し、時間や係分担等を職員会議で共有することができた。 ・校務システムの改善および新校務システム導入の検討ができた。 ・非常勤講師が担当する一部授業について課題がある。

●分掌名（ 生徒指導部 ） 評価：B

項目	成果や課題
1	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導を通じ、将来の目標に向かって努力し、目的を持ちながら日常生活を送ることができた生徒が大半であった。 ・校舎によっては学習環境の管理が十分には行き届いていない時がある。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが夢を持ち、夢に向かって真摯に努力する生活態度を育むことに努めた。 ・日常生活の中でいかに遵法精神やマナーを育む指導を行うか検討・実践を絶えず行う必要がある。 ・通学時の自転車乗車マナーに課題が残る。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・国際化の推進に伴って生じる校内の諸問題に対応することができた。 ・留学生事務局や国際交流係と担任、学年、生徒指導部とが一層の連携を図っていく必要がある。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌内で種々の問題の共有と打ち合わせを行い、課題を明確にして対処することができた。 ・生徒指導にあたる教員間の目線合わせと非常勤講師の先生方との情報共有が課題である。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員参加のもとでの登校指導を通じて生徒指導および登下校時の生徒の安全に対する意識を高

	<p>め合うことが出来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 毎日の登下校指導を通じて生徒が安全に登下校できた。 • 生徒に関する個人情報の管理を引き続き厳重に行う必要がある。
--	--

●分掌名（ 進路指導部 ） 評価：B

項目	成果や課題
1	<ul style="list-style-type: none"> • 個々の特性に応じた進路実現に向け、支援や取り組みができた。 • 進学講演会を通じて最新の入試情報を共有するとともに、進路実現に向けた具体的なイメージを生徒に持たせることができた。 • 進学講演会を通じて最新の入試情報を共有するとともに、卒業生からのメッセージで生徒の学習意欲を高めることができた • 生徒の進路希望を優先するあまり、指導が有効に働かないケースもあった。 • タブレットを活用した指導の成果を検証する必要がある。 • 多様な進路希望に応える指導体制のさらなる充実を図る必要がある。
2	<ul style="list-style-type: none"> • コースに応じた適切な進路行事の企画、運営、実践ができた。 • 系列大学・短期大学との連携を活かした指導ができた。一方で、高大連携の意義が浸透しきれていない。事前指導のあり方を検討する必要がある。 • 留学生の進路実現に向けた指導の充実をさらに図る必要がある。 • 高大連携授業を通じ、大学の実際の授業を受講し、学外単位を修得することができた。
3	<ul style="list-style-type: none"> • 特進コースからは、東大、京大などの難関大や医学部医学科合格者を多数輩出することができた。 • 強化部から有名大学へのスポーツ推薦合格者を輩出することができた。 • 高大連携事業を通じて生徒に自己の適性を考えさせ、進路選択をさせることができた。 • 留学生の中には語学の習得に課題がある生徒もいる。
4	<ul style="list-style-type: none"> • 他のコース、系列とも連携することができた。 • 留学生事務局との連携を図ることで、生徒が円滑に出願することができた。 • 学年が一体的に進路指導に向かう体制が必要である。
5	<ul style="list-style-type: none"> • 担任の進路指導に資する資料作成・提供ができた。 • 時間のやりくりが厳しい中でも担任の先生方は生徒との対話を疎かにすることなく向き合っていた。 • 校務のデジタル化を推進することで、打合せ時間の短縮、情報共有、フィードバックが円滑にできた。また同時に、過失を防止する方策づくりを進めることができた。

●分掌名（ 研究・研修部 ） 評価：C

項目	成果や課題
1	<ul style="list-style-type: none"> • 教職員の指導力向上が生徒の進路実現に直結すると考える。そのための研修が実施できた。 • 「初任者研修」は計画通り実施できた。 • 「秋季研修」等を開催し、教職員の資質向上の機会にすることができた。 • 研究授業を実施することができなかった。
2	<ul style="list-style-type: none"> • 進学コースでは、「探究」の時間に Classi キャリアナビを活用した実践が行われた。 • 教職員の任意外部研修への参加を促す。
3	<ul style="list-style-type: none"> • 「総合的な探究の時間」における「観点別評価」の理解と実践が進んだ。 • 「探究」「特別活動」の実践は教員の指導力が問われる。進学実績に影響を与えるものでもあることを教員自身が認識しなければならない。
4	<ul style="list-style-type: none"> • 初任者研修の担当講師と連絡調整が行われた。 • 分掌会議が開催できなかった。
5	<ul style="list-style-type: none"> • 提出資料はデータにすることでペーパーレス化を実現できた。 • 事前に送信した資料に全員が目を通す仕組みを考えたい。

●分掌名（ ハイスchoolスポーツセンター ） 評価：A

項目	成果や課題
1	<ul style="list-style-type: none"> • 年間目標と年間計画を策定し、月一回のハイスポ運営会議や競技力向上委員会を開催することが

	<p>できた。各部と情報共有することで、支援および環境整備を図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年や担任と連携し、個別に進路支援を行うことができた。全般的に公式戦において好成績を残し、部活動の実績が進路実現につながった。 ・練習メニューの工夫を図るなど、所属している全ての生徒の満足度向上を目指したい。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・野球、サッカー、駅伝、ラグビー、バスケットを中心にメディア報道で数多く取りあげられた。特に、県総体、関東大会、全国大会での活躍が目覚ましく、山梨学院の存在感を示すことができた。 ・選手勧誘の全体数値目標を達成することが出来た。一部の部では、競技人口減少の影響もあり、選手獲得が大きな課題である ・募集状況や戦績等に伴う強化指定の見直しと専用研修ハウスの整備を急ぐ必要がある。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイスポ運営の考え方を競技指導者や教職員と共有し、ハイスchoolスポーツの振興に努めた。 ・公式戦での各部の目標設定と振り返りを共有することができた。 ・働き方改革に対応した勤怠管理が煩雑で改善を図る必要がある。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイスポ内の分掌を決め、役割を分担した活動ができた。 ・定例の会議（ハイスポ運営会議、競技力向上委員会等）を予定通り実施できた。 ・寮運営は多岐にわたり困難な課題を抱えている。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・各部とも計画的に活動することができた。また、月一回の定例会議やメールによる連絡、臨時小委員会等を通じて所属教職員の職責を意識化する運営ができた。 ・活動実施届、活動記録簿、寮・研修ハウス記録簿等を通じて状況把握および助言ができた。 ・公式戦をはじめとする各部の活動や寮の視察に大変多くの時間を割かなければならない。 ・指導者の雇用形態が多岐にわたるため、勤怠管理が複雑である。

●分掌名（ 特進コースP系列 ） 評価：A

項目	成果や課題
1	<ul style="list-style-type: none"> ・コース会議（出願検討会）を通じて、個に応じた大学出願先を指導、助言することができた。 ・進路行事ごとに振り返りを実施し、生徒の進路の具体化を図ることができた。 ・入学直後の学習会を通じて生徒の学習意欲高揚を図ることができた。 ・生徒の進路について、担任を中心とする指導方針の共有ができた。 ・総合的な探究の時間において、学問や諸課題に目を向け、考えさせることができた。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜特別講座では、大学入試に向けた実践的指導ができた。 ・系統的にコース行事を催行し、所期の目的を達成することができた。 ・生徒個人々の学力やチームワークが発揮され、各種コンクールで顕著な成果があった。 ・学校説明会とオープンキャンパスでは、在校生および卒業生の協力を得てコーススタッフが協働し、中学生・保護者から高い評価をいただくことができた。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・難関大学を目指す生徒の育成に力を入れ、実際に受験する生徒を増やすことができた。 ・東京大学1名、京都大学1名、国公立大学医学部医学科8名など、最難関大学に多くの合格者を輩出することができた。 ・コース価値および学習効果を高める取り組みが行われた。 ・学習や進路に対して受け身的な生徒に対し、継続的に指導を行っていく必要がある。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・コース内およびコースの学年間で協力的に分掌を担うことができている。 ・定期的に情報共有を行いながら、生徒の指導にあたることができた。 ・「生徒にとって有益であるかどうか」を意識した業務の効率化が大事である。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜特別講座、代ゼミ特別課外、進学講演会、模擬試験などの課外指導が教員一人ひとりの献身的な指導に支えられている。 ・Classiの活用が図られ、ペーパーレス化が進んだ。 ・節電や環境美化の取り組みをより徹底する指導に努めたい。

●分掌名（ 特進コースA系列 ） 評価：B

項目	成果や課題
1	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大、難関私大へ多くの合格者を輩出することができた。 ・総合型選抜や学校推薦型選抜に対する効果的な指導体制および方法の充実を検討する必要がある。 ・部活動で模擬試験や長期休業中の集中講座を当日受けられない生徒たちのフォローが課題である。

2	<ul style="list-style-type: none"> ・学習と部活動を両立させ、各種大会で結果を残すことができた（ラグビー、陸上、卓球など）。 ・探究活動の充実を図り、研究成果を「SDGs QUEST みらい甲子園」に応募した。うち1チームが、アルプスエリア大会に出場した。 ・国際交流行事の新たな形態として、来年度は外部団体と連携したより系統的な学びのプログラムを実施する計画である。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルスタディーレクチャー、カナダ語学研修旅行を通じて、世界の諸問題に対する生徒の関心を高めるとともに、キャリア形成に役立てることができた。 ・留学生事務局と連携し、留学生への指導および支援ができた
4	<ul style="list-style-type: none"> ・教員それぞれが職務に責任感を持って取り組むことができた。 ・A系列独自の行事や学びのさらなる特色化と情報発信をしていきたい。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・Google 共有ドキュメントを活用し、朝の打ち合わせの省略、連絡事項の伝達と情報共有の徹底、フィードバックを確実に行うことができた。 ・連絡、指示系統の明確化を図る。

●分掌名（ 学 年 ） 評価：A（3学年） B（2学年） A（1学年）

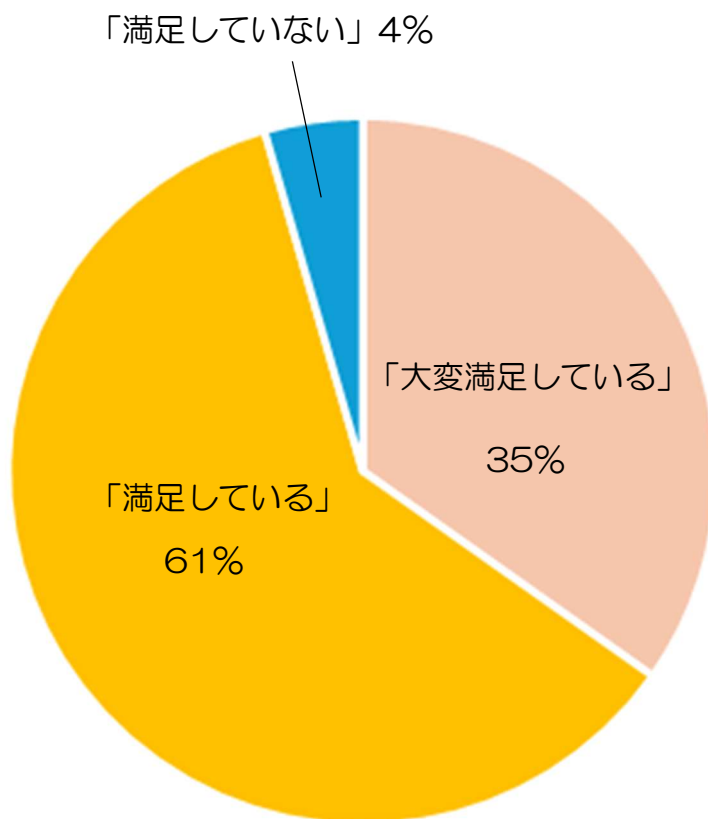
項目	成果や課題
1	<p>3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な入試形態に個別に対応することで、顕著な合格実績をあげることが出来た。 ・受験に向かうクラスの望ましい雰囲気作りが出来た。 ・分担を明確化し、システマティックかつ効率的に指導が行えた。 ・二者面談や三者面談を行いながら、個別に丁寧に進路指導を行うことが出来た。 ・志望理由書や面接指導の他、事前課題の指導、科目の指導など担任一人での対応には物理的に無理があった。 <p>2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストに真面目に取り組ませることができた。 ・個々への粘り強い指導により徐々に進路実現への意識が高まりつつある。 ・2年次後半より、受験生としての意識を持ちながら生活ができている生徒もいる。 ・キャリア教育の一環として外部講師の講演を実施したことにより、学部学科決定へのきっかけ作りを行うことができた。 ・大学入試の仕組みを理解していない生徒に対して指導が必要である。 <p>1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年次の系および文理の選択に向けて、学部研究や二者面談などを通して進路意識を高めることができた。 ・模擬試験受験指導を通じて進路への意識を高めることができた。 ・三者面談や進路希望調査を通じて、進路実現に向けて意識を高めることができた。 ・高大連携オープンキャンパスの活用について検討したい。
2	<p>3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国レベルで活躍している部が多く、本校に入学して活躍したいと思う生徒が多くなったと感じる。 ・生徒一人ひとりに対し、成績分析や進路検討などをチームで実施することで、各生徒の成長課題や将来性、適切な指導方法などを具体化することができた。 ・総合型選抜に向けた指導において、教員間の連携を図ることで良い結果を残すことができた。 ・部活動やそれぞれの活動がしやすい環境が整っている。 ・面接対策講座や面接練習を経て、著しい成長を見せた生徒たちがいる。 ・志望理由書の作成を通して、多くの生徒たちが出願する専攻に対する理解を深めることができた。 ・部活動で優秀な成績を収めている一方で、基本的な学校生活が疎かになっている生徒もいる。 ・進学先が早期に決定した生徒たちの学校生活への向き合い方や指導の在り方に課題がある。 <p>2学年、1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業や個別指導、サテライン講座の受講などに加え、iPadの利用を通して学習習慣の定着を図ることが出来た。 ・模擬試験に向けた取り組みや結果の分析によって、受験への意識を高めることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> 外部検定試験やコンクール等に挑戦する生徒が増加している。 規範意識向上のための指導を日々行った。 自己目標を具体的なものとし、モチベーションの向上を図る必要がある。
3	<p>3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 中高一貫教育による、授業の先取り、教員の対生徒理解の深さ、生徒の相談窓口の多さという利点を生かし、生徒の学習意欲向上を実現することが出来た。 通信制と留学生受入事業が拡大していることで教職員の負担が大きくなっている。 留学生の授業準備や進路指導に際しては、留学生事務局と密に連携をとることで省力化が図れたのではないかと。 <p>2学年、1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 中高一貫の成果を全面に出せた。一方で課題も感じた。 SDGs みらい甲子園に作品を出展し、エリア大会に選出された。 野球部、サッカー部、男子バスケット部は、2年生が主力となって活躍し、全国大会出場を果たすことが出来た。 1年生は試合出場の機会は多くなかったが、各部とも充実した活動ができています。 留学生事務局と連携することで、問題を抱えている留学生への丁寧な支援ができた。 留学生の指導は、生活習慣と文化の違いに起因する難しさを感じる。
4	<p>3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科会議が計画的、活発に行われ、課題解決に努力した。 デジタル化していく入試制度に柔軟に対応できた。 AIに関する教員の研鑽が必要である。 <p>2学年、1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修旅行を通じて生徒の自立や人間関係を形成する力の向上に繋がった。 学年の教員間で連携を密に測り、生徒への対応と共有ができた。 責任を一人で抱え込まず、チームで問題に対応することができた。 年間を通して予定通りの取り組みができた。 指示や職務内容が明確であったため、積極的に活動することができた。 留学生に対する学習と生活のサポートがより必要である。
5	<p>3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間の使い方を意識し、効率良く職務をこなすことができた。 日々の職務を忠実に遂行できた。 勤怠システムにより、出張時等でもわかりやすい勤怠申請ができた。 生徒指導のあり方をより統一性をもって協力しながら取り組む必要がある。 <p>2学年、1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的なあいさつを始め、コミュニケーションを密にしながら協力的に日常業務に取り組めた。 それぞれが率先して業務に取り組むことで助け合うことができた。 忠実に仕事を遂行できるよう常に心掛けている。 コース毎の目標・方針が明確化されている。 授業中の指導や生徒指導に統一感を持って臨む必要がある。 勤務時間内に職務を全うすることが難しい。 多忙な時であっても、ミスを無くすための積極的な情報共有や声かけが大切である。

Ⅱ. 生徒アンケート結果

2025年10月に全校生徒を対象にアンケートを実施し、1072件の回答があった。

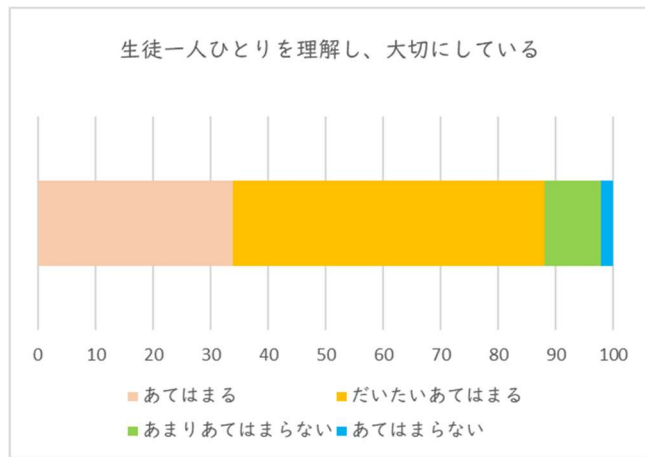
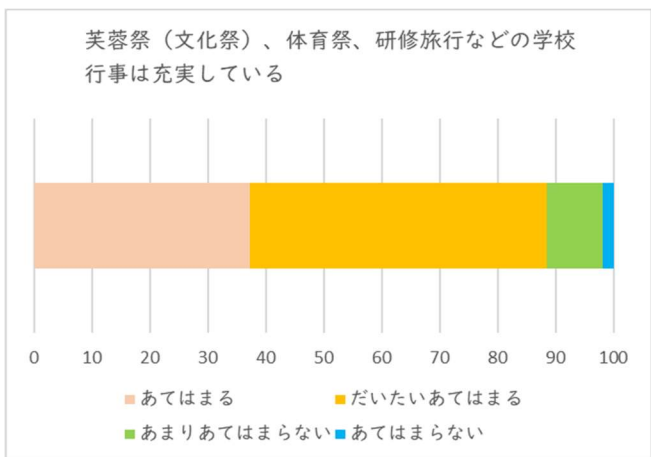
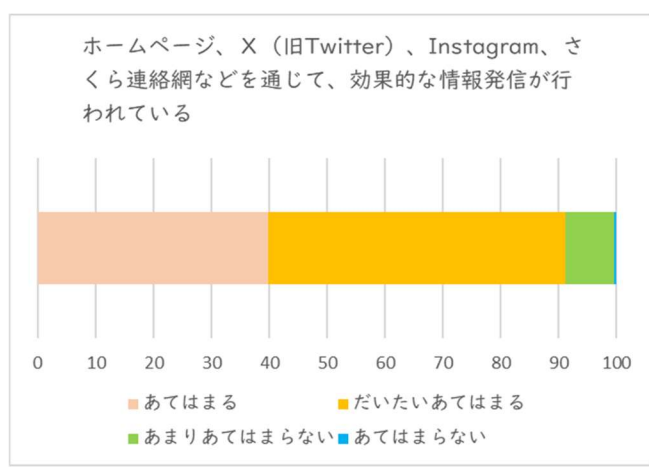
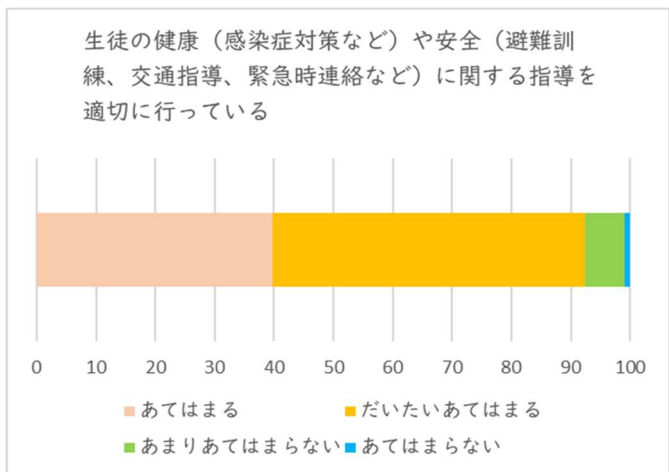
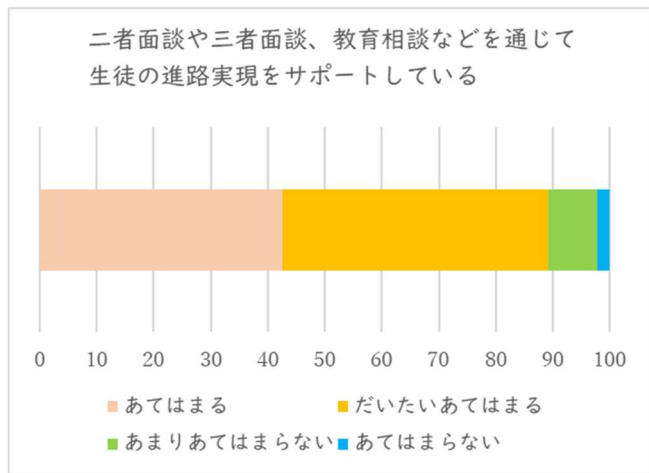
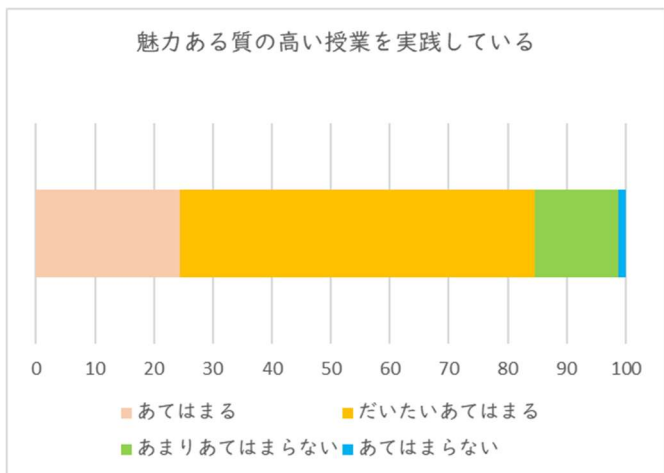
アンケート：学校生活の満足度について



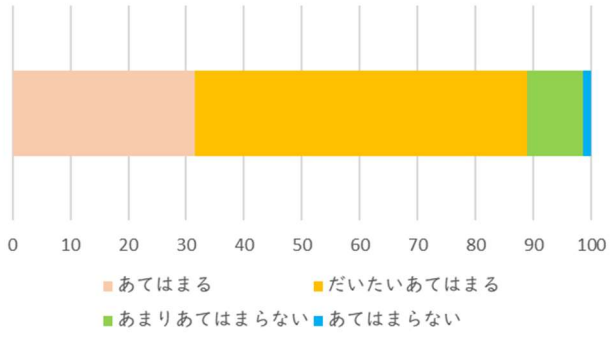
96%の生徒が、「大変満足している」または「満足している」と回答

Ⅲ. 保護者アンケート結果

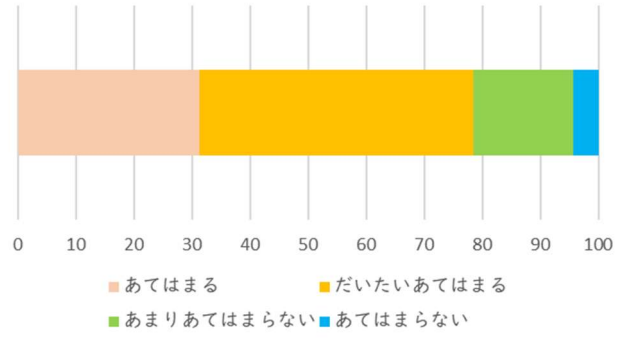
2026年2月に全保護者を対象にアンケートを実施し、744件の回答があった。



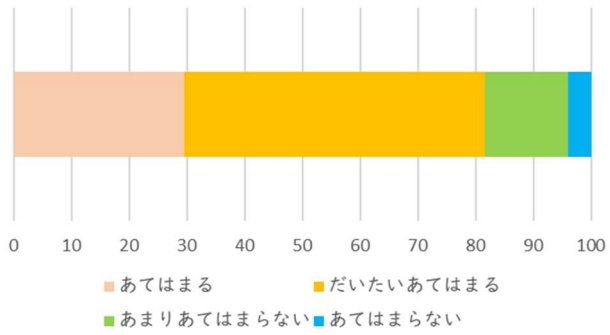
いじめのない集団作りに取り組んでいる



お子さまの学習や生活等に関する相談がしやすい



放課後や課外活動の充実が図られ、個に応じた指導を行っている



お子さまを本校に入学させて良かったと思っている

